

HDLーコレステロールキット

自動分析装置用

メタボリードHDLーC (BMテスト)

(選択的抑制法)

製造販売届出番号：13A2X00172088001

【全般的な注意】

1. 本品は体外診断用でありそれ以外の目的に使用しないで下さい。
2. 診断は他の関連する検査結果や臨床症状等に基づいて総合的に判断して下さい。
3. 電子添文以外の使用方法については保証を致しません。
4. 使用する機器の電子添文及び取扱説明書をよく読んでから使用して下さい。
5. 試薬 R - 1 及び R - 2 には、保存剤としてアジ化ナトリウム(0.1%以下)が含まれていますので、誤って目や口に入ったり、皮膚に付着した場合には、水で十分に洗い流すなどの応急措置を行い、必要であれば医師の手当等を受けて下さい。

【形状・構造等(キットの構成)】

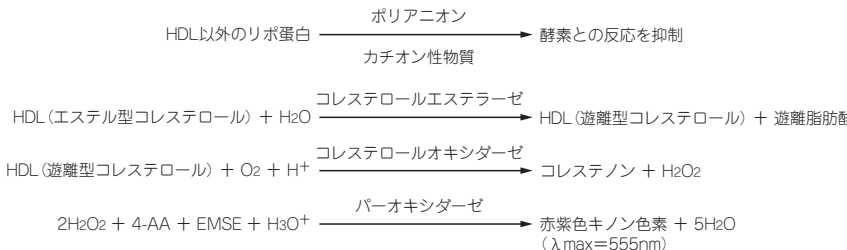
1. 試薬 R - 1
 - ・ N - エチル - N - (3 - メチルフェニル) - N' - サクシニルエチレンジアミン
2. 試薬 R - 2
 - ・ コレステロールオキシダーゼ
 - ・ 4 - アミノアンチピリン

【使用目的】

血清又は血漿中のHDLーコレステロールの測定

【測定原理】

ポリアニオン及びカチオン性物質の静電的相互作用により、HDL以外のリポ蛋白中コレステロールとコレステロール測定用酵素との反応を抑制させた状態で、コレステロールエステラーゼの作用によりHDL中のエステル型コレステロールを遊離型コレステロールに変換します。さらにコレステロールオキシダーゼの作用によりHDL中の遊離型コレステロールから過酸化水素を生成させます。生成した過酸化水素はパーオキシダーゼの存在下でN-エチル-N-(3-メチルフェニル)-N'-サクシニルエチレンジアミン(EMSE)と4-アミノアンチピリン(4-AA)を酸化縮合させ、生成する赤紫色キノン色素の吸光度を測定することによりHDL中コレステロール値を求めます。



【操作上の注意】

1. 測定試料の性質、採取法

- ・検体は血清、血漿(ヘパリン血漿又はEDTA血漿)を使用して下さい。
- ・検体は新鮮なものをご使用下さい。特に、凍結融解を繰り返した検体、凍結乾燥されたコントロール血清及び人由来でないコントロール血清は、測定結果に誤りを生ずる場合があります。

2. 妨害物質

- ・アスコルビン酸(50mg/dL)、抱合型ビリルビン(50mg/dL)、溶血ヘモグロビン(500mg/dL)、乳び(3000ホルマリン濁度)の各物質は、検体中の濃度が括弧内の濃度までは、測定にほとんど影響をおよぼしません。

3. その他

- ・サンプル量と試薬量が規定のものと異なると、誤った結果が得られる場合がありますので、測定機種ごとの測定パラメータをご請求下さい。

【用法・用量(操作方法)】

1. 試液の調製法

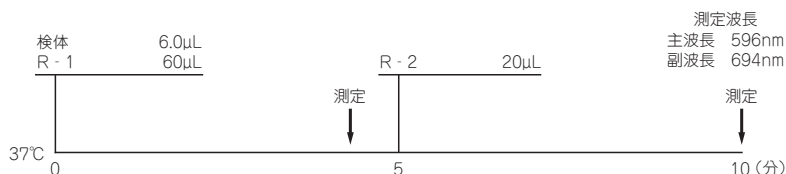
- (1)試薬 R-1 をそのまま使用します。試薬 R-1 は開封後、冷暗所保存(2~8℃)で1ヵ月以内にご使用下さい。
- (2)試薬 R-2 をそのまま使用します。試薬 R-2 は開封後、冷暗所保存(2~8℃)で1ヵ月以内にご使用下さい。

2. 必要な試料

標準品。標準品には脂質用キャリブレーター(BMテスト)(別売り品)をご利用下さい。

3. 測定法

<標準操作法>日本電子 JCA-BM9130による例(2ポイントエンド法)



<各種自動分析装置への適用>

各機種により異なります。測定パラメータは別途ご請求下さい。

【測定結果の判定法】

1. 基準範囲は各施設で独自に設定して下さい。
2. 測定結果に基づく臨床診断は、臨床症状や他の検査結果と合わせて、担当医師が総合的に判断して下さい。
3. 参考基準範囲¹⁾
男性 38~90mg/dL
女性 48~103mg/dL(JCCLS共用基準範囲)
4. 診断基準²⁾
低HDLコレステロール血症 40mg/dL未満
5. SI単位への換算式: mmol/L = mg/dL × 0.02586

【性能】

1. 性能

- (1)感 度: 生理食塩水を試料とするときの吸光度差は、0.000~0.040の範囲です。
標準液80mg/dLを試料とするときの吸光度差は0.130~0.760の範囲です。
- (2)正 確 性: 既知濃度の管理検体を測定するとき、測定値は既知濃度の±10%以内です。
- (3)同時再現性: 同一検体を5回同時に測定するとき、測定値のCV値は5%以下です。
- (4)測定範囲: 1~150mg/dL
注)特定の機種による試験結果のため、機種によっては同様の結果を得られない場合があります。
詳細は、弊社担当者にお問い合わせください。

2. 校正用の基準物質

ReCCS JCCRM224

【使用上又は取扱い上の注意】

1. 取扱い上(危険防止)の注意

- (1) 検体はHBV、HCV、HIV等による感染の危険性があります。検体の取扱いには、使い捨て手袋・実験着・保護用眼鏡等を着用し、感染防止のため人体に直接触れないように注意して下さい。測定後はよく手を洗って下さい。
- (2) 検体及び試薬を扱う場合には、口によるピペッティングを行わないで下さい。
- (3) 試薬R-1及びR-2は、アジ化ナトリウム(0.1%以下)が含まれています。これらを含むすべての試薬が誤って目や口に入ったり、皮膚に付着した場合、水で十分に洗い流す等の応急措置を行い、必要であれば医師の手当て等を受けて下さい。
- (4) 試薬をこぼした場合は、水で希釈した後拭き取って下さい。検体をこぼした場合は、80%アルコールスプレー等を使用して十分に拭き取って下さい。なお、拭き取る際にはゴム製手袋等により手を保護して下さい。
- (5) 本品及び検体を取扱う場所では飲食又は喫煙をしないで下さい。

2. 使用上の注意

- (1) 本品は凍結を避け、貯蔵方法に従い保存して下さい。凍結させた試薬は、品質が変化して正しい結果が得られないことがありますので使用しないで下さい。
- (2) 使用期限を過ぎた試薬は使用しないで下さい。
- (3) 製造番号の異なる試薬を混せて使用しないで下さい。
- (4) 同一の製造番号の試薬であっても試薬を注ぎ足すことは行わないで下さい。
- (5) 開封した試薬は指定された貯蔵方法でふたを開けて保管して下さい。
- (6) 沈殿物が発生した試薬はご使用にならないで下さい。
- (7) 自動分析機において、洗浄が不十分な場合、本品の残留により、リパーゼの測定値に誤った結果が得られる場合がありますので、洗浄を十分に行ってください。

3. 廃棄上の注意

- (1) 検体にはHBV、HCV、HIV等の感染性のものが存在する場合があります。使用した器具、廃液などは次のいずれかの方法で処理するか、各施設の感染性医療廃棄物処理マニュアルに従って処理して下さい。
 - ① オートクレーブにより121℃で20分以上滅菌処理して下さい。ただし、次亜塩素酸ナトリウム溶液を含む廃棄物は、オートクレーブにかけないで下さい。
 - ② 次亜塩素酸ナトリウム溶液(有効塩素濃度1000ppm)またはグルタルアルデヒド(2%)に1時間以上浸漬し消毒処理して下さい。
- (2) 試薬R-1及びR-2はアジ化ナトリウム(0.1%以下)を含有しています。アジ化ナトリウムは鉛管、銅管と反応して爆発性の強い金属アジドを生成することがありますので、試薬廃棄の際には、排水管に残留しないよう十分量の水で希釈して洗い流して下さい。
- (3) 試薬及び器具等を廃棄する場合には、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、水質汚濁防止法等の規定に従って処理して下さい。
- (4) 廃棄処理中に試薬が飛散した場合は、水で希釈してから拭き取って下さい。また検体が飛散した場合は、80%アルコールスプレー等を使用して十分に拭き取って下さい。なお、拭き取る際にはゴム製手袋等により手を保護して下さい。
- (5) 本品中の容器等は他の目的に転用しないで下さい。

【貯蔵方法・有効期間】

- 1. 貯蔵方法：2～8℃に保存(冷暗所に保存し、凍結は絶対に避けて下さい。)
- 2. 有効期間：18ヵ月(使用期限は外箱・ボトルラベルに記載)

【包装単位】

P/N	品名(識別番号)	包装
781619645	メタボリートHDL-C(BMテスト)	R-1 36mL×2 R-2 15mL×2

注)標準品は、脂質用キャリブレーター(BMテスト)(別売り品)をご利用下さい。

【主要文献】

- 1) 金井 正光：臨床検査法提要, 改訂第35版, p553, 2020
- 2) 動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2022年版 日本動脈硬化学会発行 p.22

*【問い合わせ先】

日本電子株式会社 MEコールセンター
東京都立川市曙町2-8-3 新鈴春ビル
電話番号：0120-134-770(受付時間 8：30～17：20)
FAX番号：0120-134-765

販売元

日本電子株式会社

東京都武蔵村山市伊奈平二丁目11番地1

製造販売元

キヤノンメディカルダイアグノスティックス株式会社

東京都中央区晴海1-8-10